



その「もの忘れ」って

認知症？



脳神経外科部長
日本認知症学会認定専門医

あまの しんじ
天野 慎士

認知症は、脳の病気や障がいなどにより認知機能が低下し、日常生活に支障が出る状態のことを言います。日本の65歳以上の認知症は、2012年で約460万人と推計され、2025年には約700万人（高齢者の約5人に1人）になると予測されています。その中で最も多いアルツハイマー型認知症は、脳神経が変性して脳の一部が萎縮していく認知症で、症状はもの忘れで発症することが多く、ゆっくりと進行します。

いですが、認知症に気づくためには、次のようなサインが役立ちます。自分の経験した出来事を忘れてたり、大事な約束を忘れてたりする場合は、最初はもの忘れを自覚していても、次第にもの忘れをしていることに気づけなくなり、話の中でつじつまを合わせようとするような場合などです。

また、経験の一部を忘れるのは加齢によるもの忘れの範囲内ですが、経験全体を忘れてしまう場合、例えば、朝ごはんは何を食べたか詳しく思い出せないなら加齢によるもの忘れですが、朝ごはんを食べたこと自体を忘れるようなら認知症のサインかもしれません。

このようなサインがあると感じたら、念のために専門医を受診することが早期発見・早期対応につながります。



出典 外務省ホームページ
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html#about_sdgs



17の目標には、貧困や飢餓、働きがいや気候変動など、世界が抱える課題が挙げられています。



みんなで学ぼう

「SDGs」

SDGsってなに？

SDGsとは「Sustainable Development Goals」(持続可能な開発目標)の頭文字で、17の目標、169のターゲットからなる人類共通の目標です。

地球上の「誰一人取り残さない」をキーワードに、2030年(令和12年)までの達成を目指すこの目標は、環境・社会・経済の3つの側面から、取り組むべき課題や行動計画を示しています。

磐田市中でもさまざまな取り組みを通しSDGs達成を目指しています。「広報いわた」では、次号から市の取り組みのほか、市民や企業などでのSDGsの活動を紹介していきます。

SDGsは世界共通の目標であるため、自分事として身近に感じられないかもしれませんが、一人一人の小さな活動の積み重ねが、地域の、国々の、世界の課題解決に繋がります。